



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

I サムエル 23・15～18

愛の励まし

サウルの息子ヨナタンは、ホレシュのダビデのところに<sup>い</sup>行って、  
神によって<sup>かみ</sup>ダビデを<sup>ちから</sup>力づけた。

I サムエル 23・16

目標

神のみ<sup>かみ</sup>心<sup>こころ</sup>を知<sup>し</sup>って、友<sup>とも</sup>を励<sup>はげ</sup>ます者<sup>もの</sup>となる。

7月3日(日)

聖書  
聖句

I サムエル 23・15～18

神によって<sup>かみ</sup>ダビデを<sup>ちから</sup>力づけた。16節

やっぱり<sup>いのち</sup>命をねらわれれば、さすがのダビデも恐れ<sup>おそ</sup>ました。そんな時<sup>とき</sup>、神様<sup>かみさま</sup>を信<sup>しん</sup>じる友<sup>とも</sup>の励<sup>はげ</sup>ましは、どんなに心強<sup>こころつよ</sup>いものだったことでしょう。ヨナタンはジフの荒野<sup>あらの</sup>のホレシュにいたダビデのもとにやってきました。そして「神によって<sup>かみ</sup>ダビデを<sup>ちから</sup>力づけた」のでした。ヨナタンはいつもダビデと共<sup>とも</sup>にいることはできませんが、神様<sup>かみさま</sup>は共<sup>とも</sup>にいてくださるから恐れ<sup>おそ</sup>れることはないよ。本当ならヨナタンが次の王<sup>つぎのおう</sup>になるはずでしたのに、ヨナタンの愛<sup>あい</sup>とへりくだる<sup>こころ</sup>心<sup>こころ</sup>と勇気<sup>ゆうき</sup>の美<sup>うつく</sup>しさ！！

いの祈り

天<sup>てん</sup>のお父<sup>とう</sup>様<sup>さま</sup>、今<sup>いま</sup>も多<sup>おほ</sup>くの<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>たちがヨナタンのような励<sup>はげ</sup>ましを必要<sup>ひつよう</sup>としています。私<sup>わたし</sup>も、あなたによって励<sup>はげ</sup>ます人<sup>ひと</sup>にしてください。

7月4日(月)

聖書  
聖句

I サムエル 23・19～24

【主】の祝福<sup>しゆくふく</sup>があなたがたにあるように。あなたがたが私<sup>わたし</sup>の<sup>おも</sup>ことを思<sup>おも</sup>ってくれたからだ。21節

ちょっとおかしいなと思<sup>おも</sup>うでしょう？ ジフびとはギブアにいたサウルのもとに上<sup>のぼ</sup>って行<sup>い</sup>って言<sup>い</sup>いました。「ダビデがホレシュの要害<sup>ようがい</sup>にいます。王<sup>おう</sup>よ、今<sup>いま</sup>下<sup>くだ</sup>ってきてください。われわれは彼<sup>かれ</sup>をあなたの手<sup>て</sup>に渡<sup>わた</sup>します」と。サウルはそう<sup>じぶん</sup>に自<sup>おも</sup>分の思<sup>おも</sup>いのとおりにしてくれ<sup>よ</sup>るジフびとに、自<sup>じぶん</sup>分<sup>ぶん</sup>に同<sup>どう</sup>情<sup>じやう</sup>を寄<sup>よ</sup>せてくれたと喜<sup>よろこ</sup>び、主<sup>しゆ</sup>の祝福<sup>しゆくふく</sup>を祈<sup>いの</sup>るのですが…さて、どうでしょう？ サウル<sup>お</sup>の心<sup>こころ</sup>がどんなにか神様<sup>かみさま</sup>から遠<sup>とほ</sup>くはなれて、自<sup>じぶん</sup>分<sup>ぶん</sup>の思<sup>おも</sup>いのま<sup>うご</sup>まに動<sup>うご</sup>いていたかよくわかります。

いの祈り

天<sup>てん</sup>のお父<sup>とう</sup>様<sup>さま</sup>、いつでも立<sup>た</sup>ちどま<sup>ま</sup>って、本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>にあなた<sup>お</sup>の思<sup>おも</sup>いと一つであるのかどうか、よく考<sup>かんが</sup>えることができますように。

7月5日(火)

聖書  
聖句

I サムエル 23・24～29

こういうわけで、この場所<sup>ばしょ</sup>は「仕切<sup>しき</sup>りの岩<sup>いわ</sup>山<sup>やま</sup>」と呼ばれた。28節

追跡<sup>ついせき</sup>、追跡<sup>ついせき</sup>、すごい緊<sup>きん</sup>張<sup>ちやう</sup>にみなぎった場<sup>ば</sup>面<sup>めん</sup>です。サウルは山<sup>やま</sup>のこち<sup>がわ</sup>ら側<sup>はし</sup>を走<sup>はし</sup>ります。ダビデといっしょの者<sup>もの</sup>たちは、山<sup>やま</sup>のむこう側<sup>がわ</sup>を走<sup>はし</sup>ります。あつ、あぶない！ ダビデは急<sup>いそ</sup>いでのがれよう<sup>ひつし</sup>と必死<sup>ひつし</sup>です。サウルとおつき<sup>もの</sup>の者<sup>もの</sup>たちが、ダビデといっしょの者<sup>もの</sup>たちを囲<sup>かこ</sup>んで、あやうく捕<sup>つか</sup>まえようとしたのです。ところが、一人<sup>ひとり</sup>の使<sup>し</sup>者<sup>しや</sup>がサウル<sup>ところ</sup>の所<sup>ところ</sup>にきて「ペリシテびとが国<sup>くに</sup>を荒<sup>あ</sup>らしに入<sup>はい</sup>っています。急<sup>いそ</sup>いで来<sup>き</sup>てください」と言うので、サウルは帰<sup>かえ</sup>りました。まさに「仕切<sup>しき</sup>りの岩<sup>いわ</sup>山<sup>やま</sup>（のがれの岩<sup>いわ</sup>）」！

いの祈り

天<sup>てん</sup>のお父<sup>とう</sup>様<sup>さま</sup>、どんなに危<sup>き</sup>機<sup>き</sup>一<sup>いっ</sup>髪<sup>ぱつ</sup>の時<sup>とき</sup>も、あなた<sup>ふ</sup>の不<sup>ふ</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup>な守<sup>まも</sup>りがあること、また、あなたこそ「仕切<sup>しき</sup>りの岩<sup>いわ</sup>山<sup>やま</sup>（のがれの岩<sup>いわ</sup>）」だということが、良<sup>よ</sup>くわかりました。

## 7月6日（水）

聖書  
聖句

I サムエル 30・1～6

しかし、ダビデは自分の神、【主】によって奮い立った。 6節

ダビデと従者たちが住んでいた町、ツィクラグがアマレクびとによって襲われた！火で焼かれ、妻やむすこ娘らはみんなとりことなつてとらえられて行った！ダビデも従者たちも大声で泣き、ついに泣く力もなくなりました。そのうち、心を痛めた民は、この悲劇をリーダーのダビデのせいにして、彼を石で打とうとしたので、ダビデは悩みました。しかし、その時、ヨナタンが「神によってダビデを力づけた」ように、「ダビデは自分の神、【主】によって奮い立った」のでした！

いのちの祈り 天のお父様、たった一人で悩む時も、あなたによって、自分を力づける道があることを知り、心より感謝します。

## 7月7日（木）

聖書  
聖句

I サムエル 30・7～10

すると、お答えになった。「追え。必ず追いつくことができる。必ず救い出すことができる。」 8節

さすがにダビデ、神に愛されている人。その人はどんな時にも第一番に、神様はどうおっしゃるのかな？と、神様にたずねる人です。祭司エブヤタルのエポデによって、ダビデは主におうかがいしたのです。主はハッキリとダビデに答えられました。「追いなさい、きっと救い出せるから」と。600人と共に出かけましたが、中には疲れてもうそれ以上無理という人が200人いました。その人たちをベソル川のこちらに残して、ダビデは400人と共に追いました。

いのちの祈り 天のお父様、もうこれまでと思うような時も自分を励まし、あなたに祈って答えをもらったダビデにならいます。

## 7月8日（金）

聖書  
聖句

I サムエル 30・11～20

兵たちは家畜の先に立って導き、「これはダビデの戦勝品だ」と言った。 20節

神様は、一つ一つのできごとや一人一人の人の用いて、まちがいを導いてくださいます。一人のエジプトの若者、アマレクびとの奴隷が用いられました。ついにダビデは夕ぐれから次の日の夕ぐれまで、丸一日かかってアマレクを撃ち、400人の逃げた若者以外には一人ものがある者なく、すべての妻、むすこ、娘、物、家畜をみごとに取りもどしました。神様が言われたとおりに。ダビデを石で打とうとした人々も「これはダビデの戦勝品だ」と言いました。

いのちの祈り 天のお父様、本当にあてにできるのは神様、あなただけ、勝利もただ、あなたから来ることを心に刻みました。

## 7月9日（土）

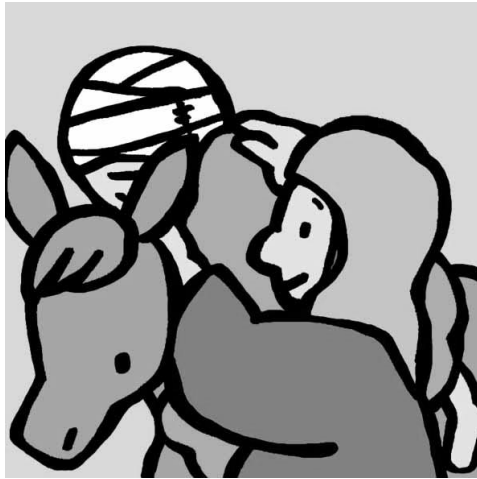
聖書  
聖句

I サムエル 30・21～31

ともに同じく分け合わなければならない。 24節

神様によって強められて、勝利を得た時、人はどういう心になるのでしょうか？大切なところですね。ダビデと行った400人のうちに悪く、よこしまな人がいて、ベソル川にとどまっていた戦わなかった人には、分捕り物はやらないでよいと言います。もしかしたら勝ち誇って心が曲がったのかもしれませんが、でもダビデは、この勝利は主によるものであるし、分捕り物も主からの賜物だから、分け前は行った人も残った人も同じにすると、広い愛の心を示します。

いのちの祈り 天のお父様、すべてはあなたからのもの。弱い者も強い者も同じように恵みにあずかれるようにとの広い心をください。



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

ルカ 10・25～37  
親切なサマリア人  
この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。

ルカ 10・36

目標

助けを必要とする人々の良き隣人となる。

7月10日（日）

聖書  
聖句

ルカ 10・25～37

この三人の中でだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。  
36節

「ウワッ！ だれかあそこに倒れている！ 死にそうだなあ……」と思いながらも、道の反対側を通り過ぎて行ったのは、人々のために神様にお祈りする祭司さんでした。神様の神殿でお仕えしていたレビ人がやってきましたが、見て見ぬふりして行ってしまいました。やがて、ユダヤ人から嫌われていたサマリア人がやってきて、「おお、かわいそうに」と、傷の手当てをし、自分の家畜に乗せて、宿屋まで連れて行きました。三人のうち本当の隣人って誰？！

いの祈り 天のお父様、この良いサマリア人のように、本当の隣人になって近づいていく子どもになれますように。

7月11日（月）

聖書  
聖句

ルカ 10・25～28

先生。何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができますでしょうか。

25節

「質問！」といってたずねる時、色々なたずね方があるそうですね。本当にわかりたい人もあれば、ここの律法学者さんのように、イエス様をためそうと、ちょっといじわるっぽい質問をする人もあるようです。でもイエス様にはそのことがよくわかっておられました。それにしても、人はみんなだれでも死ぬ時が来るのがわかると、まじめにこの質問をしたくなると思いませんか？ そして永遠のいのちがほしいなと、きっとあなたもそう思うでしょう？

いの祈り 天のお父様、どのようにしたら、永遠のいのちが与えられるのか、本気でたずねます。与えられたいと思います。

7月12日（火）

聖書  
聖句

ルカ 10・25～28

あなたの答えは正しい。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。  
28節

「心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性をつくして、あなたの神、主を愛しなさい。」「あなたの隣人を、自分のように愛しなさい。」「あなたが律法学者さんですから、イエス様から、「律法には何と書いてありますか。」とたずねられて、この二つの大切ないましめがスラスラと口から出てきました。「正解！」とイエス様がおっしゃって、さらに「それを実行しなさい」と言われたのでした。知ってることと、それを行うこととはちがうのですね。

いの祈り 天のお父様、あなたの一番大切ないましめを心に刻みます。そのみことばを行使する者となれますよう助けてください。

## 7月13日（水）

聖書  
聖句

ルカ 10・28～29

では、私の隣人とはだれですか。  
29節

どうも、この律法学者さんは、律法の言葉は頭に入っていて、口からもスラスラ出てきましたが、（そうね、これだけでも偉いなと思いますか!?) きっと、その律法を行ってはいなかったようですね。こういうのを「有言不実行」と言うのかな？ それでわざわざ、「じゃあ、イエス様、わたしの隣人って一体だれのことですか？」って、たずねたのでした！ 隣人が誰なのかわかっていなかったのので、隣人を愛するということができていなかったのです。

いのちの祈り 天のお父様、わたしも隣人とはだれなのかははっきりとわかって、その隣人を愛する子どもになりたく思います。

## 7月14日（木）

聖書  
聖句

ルカ 10・30～31

たまたま祭司が一人、その道を下って来たが、彼を見ると反対側を通り過ぎて行った。  
31節

イエス様は、「本当の隣人」とはどういう人かをわからせるために、このたとえ話をしてくださいました。強盗どもにおそわれ、着物をはぎ取られ傷を負って半殺しにされて、道ばたにたおれていた人……。そのそばを通りかかった最初の人は「祭司」です。人々のために祝福を祈り、神様にとりなし祈る人です。それなのに、たおれている人を見たのに、向こう側を通って行ってしまったというのです！ こんな人にかかわってなんかいられない、とね。

いのちの祈り 天のお父様、何ということでしょう。わたしの心にもこんな思いがあるかないか、とても考えさせられてしまいます。

## 7月15日（金）

聖書  
聖句

ルカ 10・32

同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反対側を通り過ぎて行った。  
32節

さあ、次の人がやってきました。この人はどうでしょうか。この場所にさしかかってきた第二の人は、「レビ人」でした。神様に特別に選ばれて、神殿の中で、大切なきよいご奉仕のために用いられていた人ですよ。アレ!? この人もたおれている人を見ると、前の祭司と全く同じように、向こう側を通って、行ってしまったのでした！ これはまた、何ということでしょう。あんな人にさわったりしたら私は汚れてしまう、と思ったのでしょうかね。

いのちの祈り 天のお父様、神様のお働きをする人なのに、愛も同情も少しもないなんてとおもってしまいます。残念な事です。

## 7月16日（土）

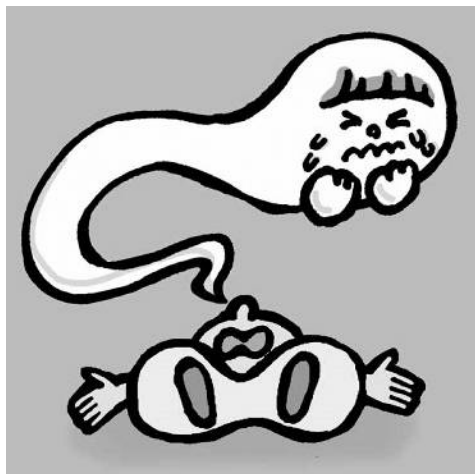
聖書  
聖句

ルカ 10・33～37

「その人にあわれみ深い行いをした人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って、同じようにしなさい。」  
37節

ところがです！ 三番目に通りかかった「サマリヤ人」はちがいました。ユダヤ人からは嫌われていたのに、この人はたおれている人を見て、『きの毒に思い』、そう、可哀想に思い、近寄って手当をし、宿屋に連れていって面倒を見てあげました。必要な費用も全部出してあげたのです！ この人こそ真に隣人になってあげた人でしたね！ 実はこの人の心に神様の愛のいのち、永遠のいのちがあったのでできたのです。罪をおわびして新しい永遠のいのちをいただきましょう。

いのちの祈り 天のお父様、あなたのいのちをいただいて助けを求める人々に近寄っていける、真の隣人になれるよう助けてください。



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

ルカ 12・13～21  
愚かな金持ちの警え  
人があるほど持っている、  
その人のいのちは財産にあるの  
ではないからです。 ルカ 12・15

目標

地上の富ではなく、神に喜ばれ  
る生き方を選び取る。

## 7月17日（日）

聖書  
聖句

ルカ 12・13～21  
人があるほど持っている、そ  
の人のいのちは財産にあるのではな  
いからです。 15節

「お金さえあれば、わたしのいのちは安全！」  
とか、「これだけの食料があるのだから、わた  
しのいのちはずーっと大丈夫」と考える人々は  
愚かな生き方をしています、と、イエス様が教え  
て下さいます。「いのち」とは、神様がわたした  
ちに与えていてくださるものです。「いのち」は  
神様のみ手の中にあるのですから、おまかせす  
るほかありません。どんなに財産があっても、  
自分の「いのち」が取り去られてしまうなら、  
何にもなりませんから。

いの  
祈り

天のお父様、地上の過ぎゆく富や財産で  
安心はできません。いのちを支配される  
あなたに喜ばれて生きたいです。

## 7月18日（月）

聖書  
聖句

ルカ 12・16～19  
わがたましいよ、これから先何年分  
もいっぱい物がためられた。さあ休  
め。食べて、飲んで、楽しめ。 19節

欲深い心を起こさないようにと、イエス様  
はたとえ話をしてくださいました。ある金持  
ちの畑が豊作で、この人は心の中で考えま  
した。「どうしよう、この作物を。そうた今の倉  
を取りこわして、もっと大きいものを建てて、  
そこに全部しまいこもう。そして、私の魂に  
言おう、たましいよ、もう安心だ、食糧はたっ  
ぷりたくわえてあるから、安心して食べ、飲め、  
楽しめ」と。食べ物さえあれば大丈夫と思いま  
すか？ ただ食べて生きているのではないので  
すね。

いの  
祈り

天のお父様、「いのち」についてこの金持ち  
は少しもわかっていません。物がすべてで  
ないことを覚えてください。

## 7月19日（火）

聖書  
聖句

ルカ 12・20～21  
愚か者、おまえのたましいは、今夜お  
まえから取り去られる。おまえが用意した物  
は、いったいだれのものになるのか。 20節

「たましいよ、さあ、安心せよ、食べ、飲め、  
楽しめ」と陽気な心で、たましいに言っている  
と、その時、神様が言われました、「愚か者、お  
まえのたましいは、今夜おまえから取り去られ  
る。」と！ な、な、なんという電撃的み声（！）  
でしょう。今夜魂が、つまり「いのち」が取り  
去られたとしたら、倉に納めて、たくわえてい  
る物は一体、誰のものになるのでしょうか。自分の  
ことだけ考えないで、「いのち」の与え主、神様  
を思っているべきです。

いの  
祈り

天のお父様、イエス様のたとえ話がよく  
わかりました。自分の欲に生きないで、  
あなたに喜ばれるよう生きます。

## 7月20日（水）

聖書  
聖句

マタイ 6・19～21  
天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むことはありません。 20節

「大切にしまっておいた宝物のような洋服が虫に食われた!」「高いお金を出して買っていた宝物のような器に、さびがついた!」「あんなにしっかりとタンスの奥にしまっておいたのに、大事な通帳とかが盗まれてしまった!」なんてことがあなたのお家にありませんでしたか? 地上に宝をたくわえようとすればこんなことになってしまうのですね。だから、こんな心配の全然ない、天に宝をたくわえるのです。どうすることでしょう? 感謝して献金することです。

いの祈り 天のお父様、天に宝をたくわえていきます。少しずつの献金がどんなにあなたに喜ばれるのかを深く思います。

## 7月21日（木）

聖書  
聖句

マタイ 6・24  
あなたがたは神と富とに仕えることはできません。 24節

だれでも、ふたりの主人に仕えることは無理な話です。イエス様は、ここでふたりの主人とは、「神」と「富」ですと言われます。「富」という主人に仕えるとなると、心の中はいつでも、どうしたら富をふやせるかということにいっぱいでしょう。金、金、金、物、物、物で、心の中に神様のことを思うスキ間は少しもありません。そのままだとあの愚かな金持ちのようになってしまいます。私たちはきょう、心底「神」のみに仕えていく決心をしましょう。

いの祈り 天のお父様、すべての必要を満たしてください。さるお方はあなたですから、あなたのみに仕える決心をきょう、します。

## 7月22日（金）

聖書  
聖句

マタイ 6・25～32  
いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありません。 25節

「心配症」の人、いますか? 「思いわずらい病」です。いのちのことで心配します。「何を食べようかな、何を飲もうかな」と。いのちは食物にまさるものです。空の鳥を見なさい。種まいたり、刈り入れしたりしなくても天の父がちゃんと養っておられます。「何を着ようか」と、からだのことで心配しなくていいですよ。あの野の花をあれほどにもきれいに装ってくださる神様は、あなたにもそうしてくださいます。からだは着物にもまさるものだからです。

いの祈り 天のお父様、心配ばかりしなくても、大切ないのちとからだはしっかりとあなたに守られていることを感謝します。

## 7月23日（土）

聖書  
聖句

マタイ 6・33～34  
まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。 33節

そういうわけで、何をまず第一に求めていけばいいかということ、「神の国と神の義」ですね。むずかしいことはありませんよ。小さいわたしたちが「神の国と神の義」を求めるということは、日曜日には、教会学校に行き、神様のみことばを心にたくわえることです。毎日、「子ども聖書日課」で、神様に喜ばれることが何であるのかを知って、その一日をすごすことです。そして、毎日、お祈りをして、神様に喜ばれる一日をすごすことです。

いの祈り 天のお父様、このようにしてあなたのことを第一にする時、すべての必要なものが与えられる約束を信じます。



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

ルカ 15・1～7

迷子の羊

いなくなった一匹を見つかるまで捜し歩かないでしょうか。

ルカ 15・4

目標

一人を追いかけて救おうとなさる神のみ心を知って生きる。

7月24日（日）

聖書  
聖句

ルカ 15・1

さて、取税人<sup>しゅぜいにん</sup>たちや罪人<sup>つみびと</sup>たちがみな、話を聞<sup>き</sup>こうとしてイエスの近<sup>ちか</sup>くにやっ<sup>ま</sup>て来た。 1節

取税人<sup>しゅぜいにん</sup>や罪人<sup>つみびと</sup>たちは、みんなから嫌<sup>きら</sup>われていました。取税人<sup>しゅぜいにん</sup>は税金<sup>ぜいきん</sup>を高くとりたてるし、罪人<sup>つみびと</sup>とよばれる人々は、パリサイ人<sup>パリサイじん</sup>や律法学者<sup>りっぽうがくしや</sup>の教<sup>おし</sup>えをまもらない。だから、わるい罪人<sup>つみびと</sup>たちとは関<sup>かか</sup>わらないほうがいい、そう思<sup>おも</sup>われていました。

そんな取税人<sup>しゅぜいにん</sup>や罪人<sup>つみびと</sup>たちがゾロゾロ、イエス様の話をきこうとして近づ<sup>ちか</sup>づいてきました。それは、イエス様が「わたしのところ<sup>ところ</sup>に来<sup>き</sup>なさい」と歓迎<sup>かんげい</sup>されたからです。罪人<sup>つみびと</sup>をよろこんでむかえてくださるイエス様は、「あなたはいいよ。あなたはダメ」なんて、人<sup>ひと</sup>によってきめたりされないのです。

いの祈り 天<sup>てん</sup>のお父様<sup>とうさま</sup>、イエス様<sup>イエスさま</sup>が大きな愛<sup>あい</sup>でわたしも迎<sup>むか</sup>えてくださることを感謝<sup>かんしや</sup>します。

7月25日（月）

聖書  
聖句

ルカ 15・1～2

「この人は罪人<sup>つみびと</sup>たちを受け入れて、一緒に食<sup>しょくじ</sup>事をしている」と文句<sup>もんく</sup>を言<sup>い</sup>った。 2節

罪人<sup>つみびと</sup>をむかえるイエス様<sup>イエスさま</sup>を、パリサイ人<sup>パリサイじん</sup>と律法学者<sup>りっぽうがくしや</sup>はだまって見ていませんでした。罪人<sup>つみびと</sup>をむかえて食<sup>しょくじ</sup>事をするなんて、とんでもないことだ！と言<sup>い</sup>っています。ここでは、罪人<sup>つみびと</sup>たちのことじゃなくて、イエス様に文句<sup>もんく</sup>を言<sup>い</sup>っています。

でも、イエス様<sup>イエスさま</sup>は気にしません。なにを言<sup>い</sup>われようが、イエス様の愛<sup>あい</sup>がひつような人をいちばん大切<sup>たいせつ</sup>にされたのです。わたしたちも、なにを言<sup>い</sup>われてもめげないで、イエス様の愛<sup>あい</sup>を伝えたいですね！

いの祈り 天<sup>てん</sup>のお父様<sup>とうさま</sup>、わたしが、どんな時<sup>とき</sup>でもイエス様の愛<sup>あい</sup>をつたえられるように、勇気<sup>ゆうき</sup>をください！

7月26日（火）

聖書  
聖句

ルカ 15・3～4

いなくなった一匹を見つかるまで捜<sup>さ</sup>し歩<sup>ある</sup>かないでしょうか。 4節

イエス様<sup>イエスさま</sup>が取税人<sup>しゅぜいにん</sup>や罪人<sup>つみびと</sup>たちをどんなに愛<sup>あい</sup>しておられるか。イエス様<sup>イエスさま</sup>はパリサイ人<sup>パリサイじん</sup>たちに、たとえ話<sup>はなし</sup>を話<sup>はな</sup>されました。

百匹<sup>ひゃくびき</sup>の羊<sup>ひつじ</sup>をかっていて、もし一匹<sup>いっぴき</sup>いなくなってしまうたら、九十九匹<sup>きゅうじゅうきゅうひき</sup>をおいて、その一匹<sup>いっぴき</sup>を見つかるまでさがし歩<sup>ある</sup>くはず！とイエス様<sup>イエスさま</sup>は言<sup>い</sup>われました。一匹<sup>いっぴき</sup>くらい、いなくてもいいのでは…と思う人<sup>ひと</sup>もいる？この羊飼<sup>ひつじか</sup>いは、イエス様<sup>イエスさま</sup>。取税人<sup>しゅぜいにん</sup>や罪人<sup>つみびと</sup>たちの一人<sup>ひとり</sup>も失<sup>うしな</sup>いたくない、救<sup>すく</sup>いたい！イエス様<sup>イエスさま</sup>というお方<sup>かた</sup>は、たった一人<sup>ひとり</sup>を救<sup>すく</sup>うために命<sup>いのち</sup>をかけるお方<sup>かた</sup>です。そう、あなたを救<sup>すく</sup>うためにも。

いの祈り 天<sup>てん</sup>のお父様<sup>とうさま</sup>、わたし一人<sup>ひとり</sup>を救<sup>すく</sup>うため、命<sup>いのち</sup>をかけてくださるイエス様の愛<sup>あい</sup>に、胸<sup>むね</sup>がいっぱいです。

## 7月27日（水）



ルカ 15・3～5

見つけたら、喜んで羊を肩に担ぎ、  
5節

ついに見つけた、一匹の羊！羊飼いは、大よろこびで羊を自分の肩にかつぎます。なんで羊を肩にのせたの…って考えたことある？実はこの羊、羊飼いかから遠～くはなれて迷子になって、自分の力で歩けないくらい疲れはてていたのです。羊は自分勝手に羊飼いかからはなれていったのに、羊飼いはさがしてくれました。自分もヘトヘトなのに、よろこんで羊を肩にかつぎました。

イエス様からはなれて、罪の道で迷子になっていたあなたを、イエス様がどんなに愛してくださっているか。つたわってきませんか。

**いの祈り** 天のお父様、罪の道で迷子になったわたしをさがしてくださったイエス様、愛でいっぱいのイエス様に感謝します！

## 7月28日（木）



ルカ 15・3～6

『一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから』と言うでしょう。  
6節

羊が見つかってよかった、めでたし、めでたし。…では終わらない。羊飼いは、友だちや近所の人たちに「一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから」と家に呼んだのです。お客さんを家に呼んだということは、「羊が見つかりましたパーティー」を開いたということ。どれだけよろこんでるんですか！

あなたがイエス様のもとに帰るとき、イエス様はこんなにもよろこばれるのです。あなたのよろこびより、イエス様はもっともっと、よろこんでおられるのです。

**いの祈り** 天のお父様、イエス様がわたしを愛して、こんなによろこんでくださるなんて、おどろきです。ありがとうございます！

## 7月29日（金）



ルカ 15・6

『一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから』と言うでしょう。  
6節

「一緒に喜んでください」という言葉は、パリサイ人、律法学者たちにも向けられている言葉です。彼らは、取税人や罪人は神様から見はなされている人だと思っていました。でも、まったくぎやくでしよう。罪人が悔いあらためて、神様のところに帰るのが、神様のみこころ。わるい罪からはなれて神様を信じるなら、こんなにうれしいことはないはずです。

イエス様は、パリサイ人たちにも、このよろこびをわかってほしかったのです。いっしょによろこんでほしかったのです。

**いの祈り** 天のお父様、イエス様のよろこびは、わたしのよろこびです。イエス様といっしょによろこぶ人にならせてください。

## 7月30日（土）



ルカ 15・1～7

一人の罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人のためよりも、大きな喜びが天にあるのです。  
7節

たった一人が悔いあらためると、なんと天国ではみ使いたちまで大よろこびするんですって（10節も読もう）。天国では、一人の人が悔いあらためるより、うれしいことはないのです。それがイエス様にとってなによりうれしいことなので、天国中がいっしょに大よろこび！

つぎつぎと天国でよろこびがおこされるように、わたしたちも、一人をイエス様のもとにつれていきたい、一人を心から愛していきたいですね。イエス様、あなたの愛をください！

**いの祈り** 天のお父様、わたしがイエス様のように一人を心から愛して、イエス様のもとにみちびくことができますように。





聖書  
テーマ  
暗唱聖句

ルカ 15・11～24

放蕩息子

この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。ルカ 15・24

目標

神のもとにこそ本当の幸いが  
あることを知り、神に立ち返る。

7月31日（日）

聖書  
聖句

ルカ 15・11～24

この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。24節

「お父さん！ わたしがいただける財産をください」と、ある日突然、二人の息子のうちの次男がそう言い、たくさんのお金を持って家を出て行きました。お父さんは毎日のように、きょうかきょうかと帰りを待ちました。その息子は財産を使い果たし、ボロボロになりいのちからがら、でも心から悔改めて父のもとに帰ってきたのです。父は大喜びで迎え、みんな赦して、手放しで受け入れたのです。父なる神様のお姿です。罪をおわびして神様のもとに帰ろう！

いの祈り

天のお父様、あなたのもとにのみ本当の安心、喜び、幸せがあることが、このお話でよくわかります。

8月1日（月）

聖書  
聖句

ルカ 15・11～12

お父さん、財産のうち私がいただく分を下さい。12節

ふつう財産をゆずってもらうのは、お父さんが亡くなったあとなのですが……。弟息子はこんな無理な注文をお父さんにしました。やさしいお父さんはちゃんと二人の息子たちに分けてあげたのです。弟息子は、自分の思うとおりに、行きたい所へ行き、やりたい放題にできることが自由だし、幸せだと思っていたにちがいありません。神様を信じない時には、みんなそう思うのですね。あなたもそう思いますか？

いの祈り

天のお父様、あなたから離れていては、何をしたとしても、幸せでも満足でもないことをよくよくわからせてください。

8月2日（火）

聖書  
聖句

ルカ 15・13～14

何もかも使い果たした後、その地方全体に激しい飢饉が起こり、彼は食べることに困り始めた。14節

たくさんのお金をもって、弟息子は家から遠い所へ行きました。「さあ、自由だぞおー！」って。お金のことを「お足」というくらい、お金には足があつて、あつという間に逃げて行くのです！ 悪い遊びのとりこになって、たちまちお金は消えてしまいました。おまけにその地方にひどいききんがあつて、彼は食べることも困るほどになりました。さあ、大変。頭の中は真っ白、顔はまっ青、胃袋はカラッポです。

いの祈り

天のお父様、自分の欲のとりこになった時、本当にどうしようもない所に追いやられることがわかります。

## 8月3日（水）

聖書  
聖句

ルカ 15・15～16

彼は、豚が食べているいなご豆で腹を満たしたいほどだったが、だれも彼に与えてはくれなかった。 16節

何か働いて、食べ物を手に入れないと、ある住民のところをたずねたら、畑に連れて行かれて、「ここで豚を飼うんだぞ」と言われたのです。「えーっ、汚い動物、臭い動物だ」と思いましたし、おまけに、ますますお腹はペコペコです。背中の皮とお腹の皮がくっつくほど！「豚のえさでも……!?」と思うほどでしたが、何もくれる人はいません。死ぬほどお腹がすくなんて、とてもとても残酷ですよ。

いのちの祈り 天のお父様、昔、父のもとにいた時の弟子息子とはとても思えないみじめな姿です。あなたを離れた人の姿です。

## 8月4日（木）

聖書  
聖句

ルカ 15・17～19

立って、父のところに行こう。そしてこう言おう。「お父さん。私は天に對して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。」 18節

「そこで彼は本心に立ちかえって」ここが一番大切なところです！彼はこれまで、うわべしか見えなかったのです。自分の心もうわべしか見えず、自分の心もごまかし、おどらされていたのです。しかし、「ここで飢えて死のうとしてゐる」と本当の自分がハッキリ見えて、やっとこさ、ハッと、我に返った、本心に立ちかえれたのです。それはつまり、神様のもとに、父のもとに立ち返ることにつながっていきました。

いのちの祈り 天のお父様、彼の心がくると180度、自分中心から神様の方に向きを変えられたことがわかり、感動します。

## 8月5日（金）

聖書  
聖句

ルカ 15・20～23

まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけて、かわいそうに思い、駆け寄って彼の首を抱き、口づけした。 20節

「こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとへ向かった」。ちゃんと、悔改めができていた証拠ですね。彼はもう、徹底的に心がくだかれ、低くされ、息子の資格はありません。雇人のひとりとして働きますとさえ言う覚悟だったのです。ところが、ところがです！父はその日息子を発見！きつと服はボロボロ、頭はボウボウ、やせこけた彼に走り寄り抱きしめ首に接吻したのです！さあ、着物だ、指輪だ、はきものだ、子牛の料理だ！って。

いのちの祈り 天のお父様、オドロクばかりの父の愛！今、あなたも、あなたのもとに立ち返る者を待ち構えておられるのですね。

## 8月6日（土）

聖書  
聖句

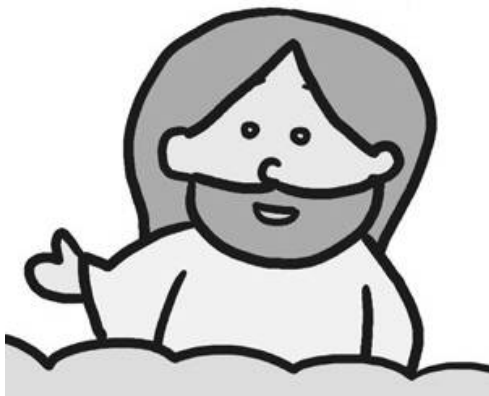
ルカ 15・24

こうして彼らは祝宴を始めた。

24節

「死んでいたと思っていた息子が生き返ったんだ！いなくなっていた息子が見つかったんだ！」父の喜びで興奮している様子がすごく伝わってきます。財産を使い果たしてしまっただなんて、遊びほうけていたなんて、もう、全く忘れ去られて、とにかく、息子が目の前にいるということが、最高の喜び。こんなにまでして迎えられた息子は、「ああ、お父さんのもとこそ最高に幸せなところ」と確信したでしょう。

いのちの祈り 天のお父様、何とうれしい祝宴だったことでしょう。今もあなたのもとに立ち返る時、天でも祝宴なのですね。



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

ルカ 18・9～14  
パリサイ人と取税人  
だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。 ルカ 18・14

目標

砕かれた心で神の赦しを受け取る。

8月7日（日）

聖書  
聖句

ルカ 18・14  
だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。 14節

「わたしは正しく罪なんかない」という心を「自分を高くする」と言い、「わたしはあなたにふさわしくない罪人」と言う心を「自分を低くする」と、イエス様は言っているよ。

そして、罪を認め、イエス様がわたしの代わりに罪の罰を受けられた救い主と信じるとき、神様の赦しと神様の正しさが与えられて、永遠の命というプレゼントまで用意されるんだ。

まさに低い者が高くされる、だね！ 神様、ありがとう！ イエス様、ありがとう！

いの祈り

天のお父様、こんなわたしに、永遠の命まで与えようと計画してくださったご愛を感謝します。

8月8日（月）

聖書  
聖句

ルカ 18・9  
自分は正しいと確信していて、ほかの人々を見下している人たちに、イエスはこのようなたとえを話された。 9節

人が正しいかどうかなんてどうやって決めるの？ なんと、イエス様のまわりには「わたしは正しい人間です！」と言い、人はたくさんいたのです。おまけに「まわりの人は正しくない！」と思っているというのです。

でも、「人の正しさ」というのは、じつは人が決められるものではありません。どんな人も心には罪のシミがあるからです。

罪のないイエス様と聖い神様だけが、お決めることになること、わすれないでいようね。

いの祈り

天のお父様、正しいかどうか決めるのは、自分ではないことをわすれないで過ごせますように。

8月9日（火）

聖書  
聖句

ルカ 18・10  
一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。 10節

いかにもりっぱで良い人と、いかにも悪いことばかりやってそうなイヤな人。

さあ、どっちがどっちかな？ そんなふうにならないうちは、見た目で決めつけやすいのです。

でもね、どんな服を着て、どんな家に住んで、何を持っていて、優等生かどうか、人生でたいせつなのは、そんなことじゃないよ。

「あなたの心、中身はどうなの？」とイエス様は教えてくれているよ。

見た目や行いだけに気を取られていると、本当にたいせつなことがわからなくなるよ！

いの祈り

天のお父様、見た目だけでなく、心をたいせつにして生きる人生を歩めますように。

## 8月10日（水）

聖書  
聖句

ルカ 18・11

奪<sup>うば</sup>い取る者、不正<sup>ふせい</sup>な者、姦淫<sup>かんいん</sup>する者  
でないこと…この取税人<sup>しゅぜいにん</sup>のようでないことを感謝<sup>かんしや</sup>します。 11節

これは「自分は正しい<sup>ただ</sup>」と思っているパリサイ人<sup>パリサイ</sup>のお祈りです。お祈り<sup>いのり</sup>と言っても、神様<sup>かみさま</sup>に喜ばれないものがあります。

ひとつは、神様にではなく人に言い聞かせるためのお祈り。人に言い聞かせているんだから、もうお祈りじゃないよね。

もうひとつは、人と比べるお祈り。さらに悪いのは、比べておいて、自分のほうがいい人間だと言っていること。

お祈りは、あなたと神様の一対一<sup>いったいいち</sup>ですものだって、おぼえておこうね！

いの  
祈り

天<sup>てん</sup>のお父様、あなただけに届くお祈りが  
できますように。

## 8月11日（木）

聖書  
聖句

ルカ 18・12

私<sup>わたくし</sup>は週<sup>しゅう</sup>に二度断食<sup>だんじき</sup>し、自分<sup>じぶん</sup>が得<sup>え</sup>ているすべてのものから、十分<sup>じゅうぶん</sup>の一<sup>いち</sup>を  
献<sup>ささ</sup>げております。 12節

あなたはどんな気持ちで、献金<sup>けんきん</sup>をしたり、教会<sup>きょうかい</sup>のお手伝い<sup>てつだい</sup>をしていますか？ ほめてもらうため？ じまんするため？ 目立つため？

このお祈りは、神様が喜ばれないお祈りの三つ目<sup>みつめ</sup>で、自分がやっていることを「どうだすごいだろ！」とじまんするお祈りだね。

捧げものも、教会のお手伝いも、お祈りもすばらしいよね。でもそれは、神様がくださった恵み<sup>めぐみ</sup>に「ありがとう！」とこたえることなんだと、聖書は教えているよ。

「神様ありがとう！」の気持ちで、いろいろなことができるあなたでいてください。

いの  
祈り

天<sup>てん</sup>のお父様、喜んで感謝<sup>かんしゆ</sup>をささげられますように。

## 8月12日（金）

聖書  
聖句

ルカ 18・13

取税人<sup>しゅぜいにん</sup>は遠く離れて立ち、目を天<sup>てん</sup>に向けようとせず、自分の胸<sup>むね</sup>をたたいて言った。 13節

「とりあえず謝<sup>あやま</sup>っておけば赦<sup>ゆる</sup>してもらえる…」って思うこと、あるよね？ あなたの心<sup>こころ</sup>の中<sup>なか</sup>のことは人からは見えないけど、神様からはぜんぶ、お見通しなんだよ。

ウソやごまかし、悪い思いを神様に見られたとき、自分の心<sup>こころ</sup>がどんなに汚<sup>きた</sup>く、神様の前で生きるのにふさわしくないかがわかるはず。だから、取税人は、神様に目を上げることも近づくこともできなかったんだね。

その気持ちであなたに「近づいてほしい」と神様は願<sup>ねが</sup>っておられるのです。

いの  
祈り

天<sup>てん</sup>のお父様、こんなわたしにも近づいてほしいと願<sup>ねが</sup>っていてくださることを感謝<sup>かんしや</sup>します。

## 8月13日（土）

聖書  
聖句

ルカ 18・13

神様、罪人<sup>つみびと</sup>の私<sup>わたくし</sup>をあわれんでください。 13節

「神様、ごめんなさい」とお祈りしたこと、ありますか？ それは自分が悪いということ、神様に赦<sup>ゆる</sup>してもらわないといけないことが、分かっているからだよね。もし神様がいないければ、人は「悪い」という気持ちを持たず「だれも見ていないんだから自分勝手に生きて、自分だけがいつも得<sup>とく</sup>をすればいい」…きっとそうなるでしょう。でもね、神様はおられて、「ごめんなさい」と言える人の心<sup>こころ</sup>も人生<sup>じんせい</sup>も、正<sup>ただ</sup>しくできるお方、そのような人にたくさん<sup>たくさん</sup>の祝福<sup>しゅくふく</sup>をくださるお方です。

いの  
祈り

天<sup>てん</sup>のお父様、わたしの心<sup>こころ</sup>と人生<sup>じんせい</sup>を正<sup>ただ</sup>しく導<sup>みちび</sup>いてください。



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

I 列王17・1～16

エリヤ①生きて働かれる神  
私が仕えているイスラエルの  
神、【主】は生きておられる。

I 列王17・1

目標

生きて働かれるまことの神を  
信じ、仕える。

8月14日(日)

聖書  
聖句

I 列王17・1～7

私が仕えているイスラエルの神、  
【主】は生きておられる。 1節

天気予報って、たいがい当たるけどたまには  
ずれたりします。ここに、預言者エリヤがいき  
なり登場して、「私が仕えている神、【主】は生  
きておられる。私のことばによるのでなければ、  
ここ数年の間、露も降りず、雨も降らない。」  
とアハブ王に言います。数年？ 何と三年六ヶ月、  
一滴のおしめりもなかったのです。予報のと  
おりに！ エリヤは神様に養われました。ケリテ  
川のほとりで、川の水を飲み、驚いたことにか  
らすが朝に夕にパンと肉を運んでくれたのです。  
神様の命令によって。

祈り 天のお父様、エリヤをからすによって養  
われたあなたは、今も生きて働いていて  
くださいますから感謝します。

8月15日(月)

聖書  
聖句

I 列王16・29～34

オムリの子アハブは、彼以前のだれ  
よりも【主】の目に悪であることを  
行った。 30節

アハブ王というのは、イスラエル最悪の王様  
でした。偶像を拝むイゼベルという奥さんと  
結婚して、自分もバアルという偶像を拝むよう  
になってしまいました（だれと結婚するかは、  
とても大事なことです）。バアルというのは、  
雨や霧を注いで農業を盛んにする男性の神で  
す。エリヤはこの神に挑戦したのです。

アシェラ像は、女神の偶像です。こうして  
国中に偶像の宮や祭壇を作って、まことの  
神様を怒らせました。神様はエリヤを遣わすこ  
とにしたのです。

祈り 天のお父様、あなたが最もお嫌いになる  
のは偶像です。わたしもあなたより大事に  
している偶像はないかチェックします。

8月16日(火)

聖書  
聖句

I 列王17・8～16

エリヤを通して言われた【主】のこ  
とばのとおり、かめの粉は尽きず、壺  
の油はなくならなかった。 16節

ちょっと雨が降らないだけでも、水不足で  
給水制限とかあって困ります。一年も二年も降  
らないと一体どんなことになるでしょう?! ケ  
リテ川の水もかれてしまいました。エリヤは主  
のことばによって、偶像の町シドンのツアレ  
ファテの、しかもやもめ女の所に遣わされま  
す。よりによって子どもと最後のパンを食べて  
死のうとしていたのです！ところが生きておら  
れる主の命令どおりにすると、「かめの粉は尽き  
ず、壺の油はなくならなかった」のでした。ワ  
ンダフル！

祈り 天のお父様、エリヤや、やもめ女と息子  
を養い続けられたあなたは、今も生きて、  
この約束を守ってください感謝です。

## 8月17日（水）

聖書  
聖句

I 列王 17・17～24

【主】はエリヤの願いを聞かれたので、子どものいのちがその子のうちに戻り、その子は生き返った。22節

あなたも病気になったことがあるでしょう。死ぬかもしれないと思うような重い病気だったでしょうか。このやめめの息子は、本当に重い病気です。とうとう死んでしまったのです。母親の手から子どもを取り、エリヤは屋上の部屋の自分のベッドに寝かせて、神様に叫び求めました、「子どもの魂をもとに帰らせてください！」主はエリヤの叫びを聞きいれてくださり、子どもは生きかえりました！何と力あるエリヤの祈りでしょう！祈りに答えてくださる主は生きておられます！

いの祈り 天のお父様、エリヤは人間であるのに、その祈りに答えて、死人さえもよみがえらせてあなたの御力をたたえます。

## 8月18日（木）

聖書  
聖句

I 列王 18・17～29

火をもって答える神、その方が神である。24節

三年以上もの間、かんばつで国中カラカラ。アハブに会って、エリヤはカルメル山での対決をと、バアル、アシェラの預言者を集めさせます。八百五十人対エリヤ一人です。たきぎの上に一頭の牛を切り裂いてのせ、「それぞれの神の名を呼びましょう。火をつけていないその牛に、天からの火を降す神を神としましょう」と言いました。まず、バアルの預言者たちからです。「バアルよ、答えてください」と。しかし応答なし。踊ったり血を流したりしても答えなし。バアルは眠っているのか？

いの祈り 天のお父様、バアルからは何の答えもありませんでした。人がつくりあげた死んだ偶像だとわかりました。

## 8月19日（金）

聖書  
聖句

I 列王 18・30～40

民はみな、これを見てひれ伏し、「【主】こそ神です。【主】こそ神です」と言った。39節

びっしょりぬれた紙にどんなにマッチで火をつけようとしてもジュンと火が消えてしまうでしょう？ ところがです。さあ、エリヤの番になりました。ヤコブの子らの部族の数、十二個の石で祭壇を築き、その周囲にみぞを作り、たきぎと牛を切り裂いてのせ、かめ十二杯分の水をザアザアかけました。夕の供え物の時間になって、エリヤの祈り、「主よ、あなたが神であると知らせてください」。その時です、主の火が降り、すべてを焼き尽くし、民がひれ伏し叫びました。

いの祈り 天のお父様、まことに、「火をもって答えられたあなたこそが神です」と、わたしも心から一緒に叫べて感謝です。

## 8月20日（土）

聖書  
聖句

I 列王 18・41～46

七回目に若い者は、「ご覧ください。人の手のひらほどの小さな濃い雲が海から上っています」。44節

「大雨の音がするから、上って行って、食い飲みしなさい」とエリヤに言われて、さすがにアハブは言われたとおりにしました。しかしエリヤはカルメル山頂に登り、祈りに入りました。地に伏して顔をひざの間に入れるとは、祈りの姿勢です。忍耐強い祈り、見るまであきらめない祈りでした。若い者は海の見える所の上から見ます、何回も行ったり来たり…ついに七回目に「人の手のひらほどの小さな雲」が見えたと思うと、まもなく大雨となりました！

いの祈り 天のお父様、わたしと同じ人間のエリヤの祈りに答えられたあなたが、今もわたしの祈りに答えてくださると信じます。



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

I 列王18・20～40

エリヤ②火をもって答える神  
火をもって答える神、その方が  
神である。 I 列王18・24

目標

神のために信仰をもって戦う。

## 8月21日(日)

聖書  
聖句

I 列王18・20～40

火をもって答える神、その方が神で  
ある。 24節

850人、対、ひとり！ ヒヤア！ それはひとりが負けるに決まってるよと思いますか？ バアルやアシェラというニセの神様を拝む 850人、対、生きているまことの神を信じて仕えるひとりと、エリヤとなると？ 話はガラリと変わります。祈りに答えて、天からの火を祭壇に呼び下す神こそ、まことの神としましょうと、いざ、対決！ バアルの神はウンともスンとも答えてくれません。しかし、エリヤの祈りに神様は答えて、天からの火が降ったのでした。

いの  
祈り

天のお父様、エリヤの祈りに答えられたあなたこそまことの神です。わたしもあなたをまことの神と信じています。

## 8月22日(月)

聖書  
聖句

I 列王18・20～24

おまえたちは、いつまで、どっちつかずによろめいているのか。もし【主】が神であれば、主に従い、

21節

バアルの預言者は450人もいます。主の預言者はエリヤひとりです。やっぱり、たくさんの人が信じているバアルの方が神様なんじゃない？ なんて考えてしまいますか？ では、それぞれの神の名を呼んで、火をもって答える神を神としましょうということになりました。もしかして、わたしたちも二つのものの間に迷ったりしていませんか？ 日曜日の朝、みんなは海や山へ遊びに行っている。どうしよう？ イエスを信じるわたしたちは、迷わず教会学校へ！

いの  
祈り

天のお父様、あなたを一心に信じて求めるのを邪魔するものの間で迷うことがないように、お守りください。

## 8月23日(火)

聖書  
聖句

I 列王18・25～29

何の声もなく、答える者もなく、注目する者もなかった。 29節

ではまずは、バアルの預言者たちからスタート！ 牛を祭壇の上に置いて、火をつけないで、神の名を呼びました。「バアルよ、答えてください」と、朝から昼まで呼んでも何の答えもなしです。まわりを踊ってもダメ。エリヤはあざけります、「え!? 考えにふけてる？ 旅行中？ 爆睡中？」バアルの預言者たちは大声で叫び、刀とやりで身を傷つけ血を流しました！ それでもノー・アンサー。なぜって、バアルはニセの神で、死んだ偶像ですから当たり前です。

いの  
祈り

天のお父様、ニセモノの神バアルがいかに死んだ頼りにならないものであるのが、よくわかりました。

## 8月24日（水）

聖書  
聖句

I 列王 18・30～35

彼は、壊れていた【主】の祭壇を築き直した。 30節

バアルの預言者たちは、さんざんな目に合いましたね。ニセの神に従うとこうなるのです。さあ！ エリヤの番です。エリヤは一番に、こわれている主の祭壇をきちんと整えました。ヤコブの子らの部族の数、12の石で、主の名によって祭壇を築きました。周囲にみぞを作り、たきぎと牛をのせ、何とその上に4つのかめに水を満たしたものを注ぎました。ザーッ、ザーッと3度もしたので祭壇は水浸し、みぞまで、水がいっぱいになりましたよ！！

いの  
祈り

天のお父様、エリヤのように、わたしもお祈りの祭壇をきちんと整えて、あなたに祈り、答えを待ち望みます。

## 8月25日（木）

聖書  
聖句

I 列王 18・36～37

私に答えてください。【主】よ、私に答えてください。 37節

先祖アブラハム、イサク、ヤコブを祝福されたイスラエルの神に、エリヤは、まっすぐに、迫ってお祈りします。「あなたこそが神であることを、この人々すべてに知らせてください。わたしがあなたのしもべで、あなたの言葉に従ってやっているのだということをハッキリと教えてください。主よ、わたしに答えてください」と。わたしたちも、こんなエリヤのようなお祈りがしたいですね。きっと神様だって、黙ってはられないと思いませんか？！

いの  
祈り

天のお父様、エリヤのお祈りには力がこもっています。わたしもエリヤのようにあなたに迫って祈りたいです。

## 8月26日（金）

聖書  
聖句

I 列王 18・38～40

民はみな、これを見てひれ伏し、「【主】こそ神です。【主】こそ神です」 39節

『そのとき』です！ な、な、な一んと、主の火が下ったのです！ そして、燔祭を焼きつくし、たきぎもちろん焼きつくし、しかも、石もちりも焼きつくし、さらにはみぞの水をもなめつくしたではありませんか。人々は皆それを見て、ひれ伏して叫びましたよ。「主こそ神です。主こそ神です」と。イスラエルの神、アブラハム、イサク、ヤコブの神、エリヤの神の勝利！ 火をもって天から答えられたのはこの神でした。バアルの神はニセモノです。

いの  
祈り

天のお父様、誰の目にも、この時ばかりはあなたこそまことの神とわかりました。今も永遠までもそうです。

## 8月27日（土）

聖書  
聖句

ヤコブ 5・13～18

正しい人の祈りは、働くと大きな力があります。 16節

「エリヤは、私たちと同じ人間でしたが」（17）とあります。そうなのです。エリヤは人間でしたが、信仰と祈りの人だったのです。神様のみことばを信じて、お祈りして、雨をとどめたり、降らせたりしたのでした。そして、カルメル山でもお祈りで勝負し、みごとに勝利しました。神様を信じるわたしたちに与えられているすごい武器が、「みことばとお祈り」ですよ。さあ、わたしたちもみことばをしっかり握り、信仰のお祈りで勝利しよう！

いの  
祈り

天のお父様、あなたに対抗したり敵対する力の多い中、み言葉とお祈りであなたのために戦わせてください。





聖書  
テーマ  
暗唱聖句

Ⅱ列王2・1～15a

エリシャ①霊の二倍の分

では、あなたの霊のうちから、  
二倍の分を私のものにしてください。  
Ⅱ列王2・9

目標

神の働きの継続のために用いて  
いただきたいと願う者となる。

8月28日(日)

聖書  
聖句

Ⅱ列王2・1～2

【主】は生きておられます。あなた  
のたましいも生きています。私は決  
してあなたから離れません。 2節

神様にたくさん用いられた預言者エリヤ。と  
ころが、なんと神様は、エリヤをたつまきにの  
せて、天国につれて行かれるというのです！

エリヤには、エリシャという弟子がいました。  
エリシャは、エリヤが天国に行くことを知って  
いたので、エリヤのそばから離れません。最後  
まで神様のことをエリヤ先生におしえてほし  
い！と思っていたでしょう。神様のこと、もっ  
と知りたい。これは、とてもよい願いです。神様  
はよろこんでおしえてくださいます。

いの  
祈り

天のお父様、あなたのことをもっと知りたい  
です。どうかわたしに教えてください。

8月29日(月)

聖書  
聖句

Ⅱ列王2・3～5

私も知っていますが、黙っていてく  
ださい。 3節

エリヤが天国につれて行かれることは、ほか  
の預言者たちも知っていました。それで、彼ら  
はエリシャに「神様が、あなたの先生をあなた  
のところから取られるのを、知っています  
か？」と言ってきたのです。みんなでそのこと  
を話していたんでしょう。でも、エリシャは  
「黙っていてください」と、いろいろ言うてく  
るのをやめさせました。

神様がなにかをされるときは、人間のむだな  
話、うわさ話はしないで、しずかにお祈りし  
て待ちつづけましょう。人間がよいけいなことを  
しないで、神様だけを待ちのぞむんです。

いの  
祈り

天のお父様、わたしが神様だけを待ちのぞ  
むことができますように。よいけいなことを  
して、神様のじゃまをしませんように。

8月30日(火)

聖書  
聖句

Ⅱ列王2・6～8

エリヤは自分の外套を取り、それを  
丸めて水を打った。すると、水が両側  
に分かれたので、二人は乾いた土の  
上を渡った。 8節

エリヤとエリシャはヨルダン川のほとりに  
来ました。エリヤは上着をくるくるまいて、  
それで水を打ちました。すると、水がわかれ  
て二人はむこう岸までわたったのです。神様  
の力がエリヤの上にありました。

神様が、エリヤの人生の最後まで共におら  
れたことがわかりますね。エリヤも、最後ま  
で神様から離れませんでした。そのままのす  
がたで天国に行けるほどに、いつも神様と  
いっしょでした。

いの  
祈り

天のお父様、エリヤのように、わたしが神  
様といっしょにあゆむことができるよう、  
おまもりください。

# 8月31日(水)

聖書  
聖句

Ⅱ列王2・9～10

では、あなたの霊のうちから、二倍の  
分を私のものにしてください。

9節

エリシャはエリヤがいなくなる前に、「あなたの霊の二倍の分をください!」と言いました。「エリヤ先生のうちにある神様の力を、わたしはたくさん受け継ぎたい!」と願ったのです。「わたしが天国にいくのをあなたが見ることでできたら、そうなる」とエリヤはこたえました。

エリヤ先生がいなくなる。神様の力がなにとわたしは何もできない。神様、わたしといっしょにいてください! それがエリシャの心からの願いでした。

いの祈り 天のお父様、わたしもあなたがいなければ何もできないよわい人間です。どうか、いつもいっしょにいてください。

# 9月1日(木)

聖書  
聖句

Ⅱ列王2・11～12

「わが父、わが父、イスラエルの戦車と騎兵たち」と叫び続けたが、エリヤはもう見えなかった。 12節

ついに、その時がきました。なんと、火の戦車と火の馬があらわれて、エリヤとエリシャの間にきて二人を離しました。そして、エリヤは、たつまきにのって天へのぼっていったのです! エリシャは大声で叫びましたが、エリヤは、あつという間に見えなくなりました!

でも、エリシャはエリヤが天にのぼるのを見ました。ほかはだれも、見ることはできませんでした。神様の力を心から求めたエリシャは、神様の力を見ることができたのです。

いの祈り 天のお父様、あなたがどんなに素晴らしいお方か、わたしも見ることをできるようにしてください。

# 9月2日(金)

聖書  
聖句

Ⅱ列王2・13～14

エリシャが水を打つと、水が両側に  
分かれ、彼はそこを渡った。

14節

エリシャは、エリヤが天にのぼっていくときに彼がおとした上着をひろいました。「エリヤの神、主はどこにおられるのですか?」と言って、エリヤがしたように上着でヨルダン川を打ちました。すると、なんとおなじように川がわかれて、エリシャはむこう岸にわたったのです!

神様は、エリヤとおられたようにエリシャといっしょにおられました。神様はエリヤだけの神様ではありません。エリシャの神様なのです。そして、あなたの神様なのですよ。

いの祈り 天のお父様、あなたは、わたしの神様です。エリシャとおられたように、わたしといっしょにいてくださることを感謝します!

# 9月3日(土)

聖書  
聖句

Ⅱ列王2・15

「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている」と言って、…地にひれ伏して礼をした。 15節

預言者たちは「エリヤの霊がエリシャにとどまっている!」と言いました。神様はエリシャをエリヤの後継者にされました。エリヤの働きをエリシャが受け継いだ、ということです。

牧師先生や教会学校の先生、信仰のせんばいたちの働き。それは、先生たちも受け継いできたものなのです。そして、つぎは、あなたが受け継いでいく働きです。自分にできるかな? できますとも。エリシャとおなじ神様が、あなたを用いてくださるんですから!

いの祈り 天のお父様、わたしがエリシャのように神様の働きを受け継ぐことができますように。わたしを用いてください!

ラリーデー



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

Ⅱ列王4・1～7

エリシャ②器と油

器を借りて来なさい。空の器を。

それも、一つや二つではいけません。

Ⅱ列王4・3

目標

神の偉大な働きを受け取るために備える。

9月4日(日)

聖書  
聖句

Ⅱ列王4・1

債権者が来て、私の二人の子どもを自分の奴隷にしようとしています。

1節

エリシャのところに、なかまの預言者の妻が助けをもとめてやってきました。預言者だった夫が天国にいきましたが、なんと、たくさんの借金をのこしたままだったのです。返すお金がないので、ふたりの子どもたちが奴隷としてつれて行かれてしまうことに。今まさに、つれて行かれるすんぜん、大ピンチ!

ピンチは、なるべくさけたいけど…おこってしまうのが人生。でも、それは神様のすばらしさを体験するためでもあるのです。さあ、神様が何をされるのか、期待しましょう。

いの祈り

天のお父様、わたしがピンチの時に、あなたが何をしてくださるのか、期待することができますように。

9月5日(月)

聖書  
聖句

Ⅱ列王4・2

何をしてあげようか。私に話さない。あなたには、家の中に何があるのか。

2節

エリシャは助けをもとめてきた女性に、「あなたにはなにがあるか」と言いました。女性は「油のつぼ一つしかありません」と答えました。つぼ一つの油だけでは、借金を返すのは無理、と思いますね。

でも、あえてエリシャは聞いたのです。神様は、どんな小さなものでも用いることができるお方だから。「あなたはどんなものを持ってる?」と神様はあえて聞かれます。「わたしには、これしかないですが…」と神様にささげると、すごいことがおきるのです。

いの祈り

天のお父様、どんなに小さなもの、小さなことしかできなくても、あなたにささげていきます。あなたに期待します。

9月6日(火)

聖書  
聖句

Ⅱ列王4・3

器を借りて来なさい。空の器を。

それも、一つや二つではいけません。

3節

エリシャにはわかりました。神様は、このつぼ一つの油を用いられるんだ! って。そこで、近所の人々から、あいている器をどんどん借りてきなさい、一つや二つではだめ、たくさん借りてきなさい、と女性に言ったのです。油はつぼ一つ分しかないし、たくさん器を借りても、いれる油はないのに。

神様はそんな状況でも、たくさん器を準備しなさいと言われます。神様の恵みをたくさん受ける準備をしなさい、ってこと。とにかく、神様の言われたとおりにしないと。

いの祈り

天のお父様、どんな状況でも、あなたのみことばのとおり、恵みをたくさん受ける準備をしていきます。

9月7日(水)

聖書  
聖句

Ⅱ列王4・4

家に入ったら、あなたと子どもたちの背後の戸を閉めなさい。そしてすべての器に油を注ぎ入れなさい。  
4節

エリシャは言いました。借りてきた器ぜんぶに油をそそぎなさい。器がいっぱいになったら、わきにおきなさい。…え、借りてきた器ぜんぶ？ いっぱいに油が入るの？

しかも、女性と子どもたちだけで部屋に入って戸をしめてからやりなさい、って。エリシャは部屋に入りません。神様は、エリシャをとおしてではなく、直接、この女性と子どもたちに神様を体験させようとされました。あなたも、あなた自身が神様を体験しないとね！

いの祈り 天のお父様、わたし自身が、あなたのすばらしさを体験できるようにしてください。

9月8日(木)

聖書  
聖句

Ⅱ列王4・5～6

「もっと器を持って来なさい。」その子どもが彼女に、「もう器はありません」と言うと、油は止まった。  
6節

女性は、借りてきた器に油をそそぎはじめました。なんと、油がなくなりません！ 子どもたちがつぎつぎ、借りた器をもってきて、どんどん油をついでいきました。そして、あいている器がなくなると、それまで出ていた油がピタリと止まったのです！

神様は、準備した器がいっぱいになるまで、油を止められませんでした。神様の恵みは、足りない、ということがありません。神様は、かならず満タンにしてくださるのです。

いの祈り 天のお父様、あなたの恵みで、わたしを満タンにしてくださることを感謝します！

9月9日(金)

聖書  
聖句

Ⅱ列王4・7

行ってその油を売り、あなたの負債を払いなさい。その残りで、あなたと子どもたちは暮らしていけます。  
7節

女性も子どもたちも大よろこびでエリシャに教えにいきました。エリシャは女性に、油を売ってお金にして借金を返しなさい、と言いました。これで子どもたちは奴隷にならずにすみしました！ それだけではありません。のこったお金で、女性と子どもたちが暮らしていけるというのです！ そこまで願っていないのに！

神様は、わたしたちの願いより、もっとたくさん恵みをくださるんです。神様は、なんと愛のお方でしょう！

いの祈り 天のお父様、わたしが思ういじょうの恵みをくださる、愛のお方であることを感謝します。

9月10日(土)

聖書  
聖句

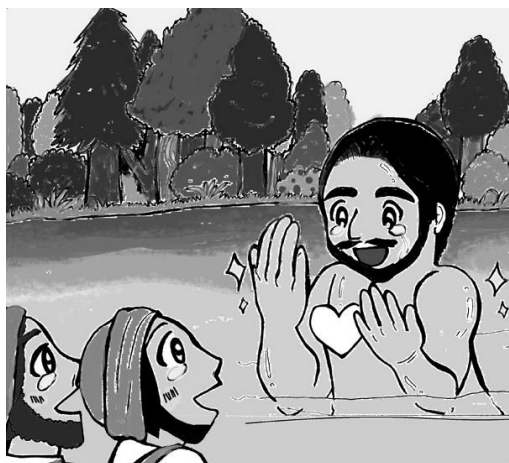
Ⅱ列王4・1～7

器を借りて来なさい。空の器を。それも、一つや二つではいけません。  
3節

神様って、べつに人間がな～んにもしなくて、何でもできるお方。でも、女性を持っているつば一つの油を用いたり、器を持ってくるようにさせられたでしょう。神様は、わたしたち一人一人を用いて、神様の働きをしたいのです。神様の働きにわたしたちが協力すると、神様はともうれしいのです。

神様の働きのために、わたしたちもしっかり祈って準備しましょう。わたしたちの準備さえできたら、神様はすぐに、すばらしい働きをはじめられます！

いの祈り 天のお父様、あなたの働きのために、わたしも準備していきます。わたしをどうぞ、用いてください。



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

Ⅱ列王5・1～14  
エリシャ③ナアマン将軍の癒し  
身を洗ってきよくなりなさい。  
Ⅱ列王5・13

目標

隠れた悩みの解決を、神様から  
いただく。

9月11日(日)

聖書  
聖句

Ⅱ列王5・1～14  
身を洗ってきよくなりなさい。

13節

誰にも言えない心の中こころの悩みなや。お父さんにも、お母さんにも兄弟たちにも、学校の先生にもどの友だちにも言えない…。神様かみさまだけは、ちゃあんとご存知ごぞんじ、そして、神様だけが、その悩みをきっちり解決してくださるのです。ナアマン大將のようにね。表面は立派だったナアマンの悩みは、恐ろしい重い皮膚病にかかっていたこと！不思議な導きで、神の人エリシャのことを知り、え!? と思うような方法で、すっかり癒され、清くされましたね。

祈り 天のお父様、すべてを知っていてくださるあなたのおっしゃるとおりにすれば悩みが解決されると信じます。

9月12日(月)

聖書  
聖句

Ⅱ列王5・1  
この人は勇士であつたが、ツアラアトに冒されていた。 1節

カッコいいネ! 「大勇士ナアマン!」 王の軍勢の長だし、主君からは、「ナアマン、ナアマン」って、大切にされ、素晴らしいことに、神様に助けられ、用いられて、アラムの国に勝利を勝ち取った、まさに「大勇士」だって、晴れやかな勝利の行進をして、人々からほめられたでしょう。ところが、人には言えない隠れた悩みをかかえて悩みに悩んでいたのです! それは服の下に重い皮膚病があったことでした。

祈り 天のお父様、外側が立派に見えても、内側にある悩みはこまります。あなたは知っていてくださるので感謝です。

9月13日(火)

聖書  
聖句

Ⅱ列王5・2～5a  
もし、ご主人様がサマリアにいる預言者のところに行かれたら、きっと、その方がご主人様のツアラアトを治してくださるでしょう。 3節

すべてを知っていてくださる神様は、ナアマンの悩みもよくわかっておられました。神様はナアマンの悩みを解決してあげたいと、働きかけてくださいました。そこにイスラエルから捕えられてきたひとりの少女が用いられたのです。彼女はナアマンの奥さんにお仕えたのでナアマンの悩みを知りました。そして、預言者エリシャのことを話し、ご主人様がこの方と共におられたらよかったのに、きっと病をいやしてくださいますと言ったのです。

祈り 天のお父様、あなたはナアマンのために少女を用いられました。幼くてもあなたに用いられるのは喜びです。

9月14日(水)

聖書  
聖句

Ⅱ列王5・5b～7

私は殺したり、生かしたりすること  
のできる神であろうか。 7節

わらにもすがりたいような悩む心のナアマンでしたから、さっそくに主君アラム王に伝えました。王はイスラエル王への手紙を持たせてくれました。たくさんの贈り物と共に、その手紙をイスラエルの王に見せると…「ナアマンの病をいやしていただくためです」と読んでイスラエルの王は衣を裂いて言いました、「この病の人をいやせと?」とんでもない、わたしはそれができる神ではないと。そうです、一国の王だって皮膚病をいやせないのですね。

いの  
祈り

天のお父様、イスラエルの王のショックが伝わってきます。本当のいやし主は、あなたの他にはありません。

9月15日(木)

聖書  
聖句

Ⅱ列王5・8～10

ヨルダン川へ行って七回あなたの身を洗いなさい。 10節

悩むナアマン、悩むイスラエルの王、悩む人ばかりですね。そこに、そのことを聞きつけた、神の人エリシャの登場です。「彼をわたしのものとこさせなさい」と王に人をつかわして言いました。ナアマンは馬と車とを従えてきて、エリシャの家の入口に立ちました。すると使いの者がエリシャの言葉を伝えたのです。「ヨルダンで七たび身を洗えば肉はもとにかえり清くなります」。何てわかりやすく、しやすいことでしょう! 神様らしい解決です。

いの  
祈り

天のお父様、あなたのご命や、解決法は決して、困難だったり、従いにくいものではないのでホッとします。

9月16日(金)

聖書  
聖句

Ⅱ列王5・11～12

こうして、彼は 憤って帰途についた。 12節

トコロガ、ドッコイ! ナアマン大將は腹を立てて、怒りながら去っていったのです。ドーシテ? ナアマンはこう考えていました。「エリシャが出てきて、主の名を呼び、手を置いて動かしていやすのだろう」と。「のだろうと思っただ」というのが問題ですよ。しかも、自分の国のアマナやパルパル川の方がよほどいい川水だね。ですから使者が出て来て、告げた言葉など、そっちのけで彼は怒り去りました。自分の考えは神様の解決の邪魔をします。

いの  
祈り

天のお父様、いつでもあなたの言われることを素直に聞いて従うことのできるやわらかい耳と心をください。

9月17日(土)

聖書  
聖句

Ⅱ列王5・13～14

あの人は、「身を洗ってきよくなりなさい」と言うだけではありませんか。 13節

よい先輩、よい主人、よい奥さん、よい子ども、ここでは、よいしもべを与えられている人はしあわせですよ。しもべたちの心の方がよほど神様に近く、喜ばれる心だったのです。ナアマンを納得させました。「なおりたいのでしょうか!? むずかしいことをいわれてもやったでしょう? まして彼は『身を洗って清くなれ』と言うだけです」と。恥をしので、神の人の言うとおりに、裸になって7たび川に身を浸すと、肉は幼な子のように清くなりました!

いの  
祈り

天のお父様、ナアマンの悩みはみごとに消え去り、身も心も晴れやかにあなたがしてくださいました。ハレルヤ!



聖書  
テーマ  
暗唱聖句

ヨナ 1・1～17

神に背いたヨナ

私は、海と陸を造られた天の神、  
【主】を恐れる者です。

ヨナ 1・9

目標

神に背いて歩むことの災いを  
覚え、喜んで神に従う。

9月18日（日）

聖書  
聖句

ヨナ 1・9

私は、海と陸を造られた天の神、  
【主】を恐れる者です。 9節

神様は、神様を信じる人をなんとかして用いたいと思われるお方です。どんなに「え～、そんなこといやだよ」とか「あ～と～でっ!」と、なかなか言うことをきこうとしない人であっても、です。

ヨナは神様の言うことをきけなくて、神様からにげてしまいました。でもそのあと、神様をまだ知らない人の前で「まことの神様を信じています」と言うしかできないごとにあつたよ。

そうするしかない、というできごとにあわせてでも、神様はヨナを用いたかったんだ。神様はあなたにも、そんなできごとを用意しておられるでしょうね。

祈り

天のお父様、なんとかわたしを用いたいと思うあなたの思いを知りました。

9月19日（月）

聖書  
聖句

ヨナ 1・1～3

しかし、ヨナは立って、【主】の御顔を避けてタルシシュへ逃れようとした。 3節

神様のこと信じている人! 「はい!!」神様のことだ～いすきな人! 「はいは～い!!」

じゃあ、神様のためにいちばんきれいなあの人を教会にさそえる人! 「うううっ…」。

ヨナも神様を信じていたんだ。でもニネベという、罪だらけの町へ神様に行くように言われたとき「うっ…」っとなって、とうとうにげだしちゃったの。行きたくなかったんだね。

あなたはどうですか? 「あなたを愛しているよ」といつも言ってくれる神様は、あなたのきれいなあの人愛し、神様を信じて変わってほしいと思っているんだよ。にげないでね!

祈り

天のお父様、わたしもヨナと同じです。にげださない強さをください。

9月20日（火）

聖書  
聖句

ヨナ 1・4～5

【主】が大風を海に吹きつけられたので、激しい暴風が海に起こった。 4節

神様はヨナがきらいになったの? いじわるしたいの? そう思った人はいる?

いいえ。神様は、「わたしは悪くない! 正しい!」と自分のかんがえでものごとを決めてしまおうヨナに「ちがうよ!」と気づかせたかったのです。

あなたがまちがったことや正しくないことをするとき、罪をおかすとき、神様はあなたをこらしめるかもしれません。それは、あなたが、あなたの決めた道を生きるためではなく、神様の用意された正しい道を生きるためです。

祈り

天のお父様、自分のしていることが本当に正しいか、あなたが教えてください。

## 9月21日（水）



ヨナ 1・6～10



彼らがくじを引くと、そのくじはヨナに当たった。 7節

神様のこらしめは、ヨナだけでなく、まわりの人たちをまきこんでしまいました。船が嵐にあつて大変な中で、まだまことの神様を知らない人たちは偶像の神にお祈りしたり、罪人を決めるくじをみんなでひいたりしたのです。

でも、神様はふしぎなお方です。このくじをヨナに当て、ヨナの神様はまことの神様であること、ヨナが神様にしたがわらないでにげたことを、まわりの人に知らせたのです。ヨナだけでなく、そこにいた人みんなが、まことの神様がだれであるかわかり、また神様にしたがうたいせつさを知ったでしょうね。

**祈り** 天のお父様、いつも、どんな中でも、あなたがどんなお方か、わたしだけでなくみんなに知らせてください。

## 9月22日（木）



ヨナ 1・11～12



この激しい暴風は、私のせいであなただけを襲ったのです。 12節

ヨナといっしょに船にのっていたのは、まことの神様を知らない外国の人たちでした。あんなにニネベに行くのをいやがったヨナでしたが、この人たちが嵐で苦しんでいるのを見たとき、一つのことをわかったのです。それは、このことが自分の罪のせいだったということ。

そして、ヨナは、この外国の人たちを助けるために、自分が海になげこまれることをえらんだのでした。命がけの決心だね。

神様はこの事件の中で、ヨナの罪に気づかせてくれただけでなく、外国の人のために命をかけるということも教えてくださったんだね。

**祈り** 天のお父様、いろんなことの中で、あなたにしがうことを教えてくださり、感謝します。

## 9月23日（金）



ヨナ 1・13



人々は船を陸に戻そうと漕いだが、そうすることはできなかった。 13節

あなたは、どれくらい神様を信じていますか？ また、どれくらい神様にしがっていますか？ 人助けや良い行いなら、神様を信じている人でなくてもできます。船にのっている人たちも、まことの神様を信じていたわけではありませんが、いっしょうけんめい、ヨナを助けようと努力してくれました。ヨナは神様からにげてみんなにめいわくをかけているのに！

神様を信じる、という気もちにごまかしはききませんね。神様の愛や赦しをおこないであらわしてはじめて、神様を信じている人間になれるのですね！

**祈り** 天のお父様、ちゃんとおこないで「信じてること」をあらわせますように。

## 9月24日（土）



ヨナ 1・14～16



人々は非常に【主】を恐れ、【主】にいけにえを献げて誓願を立てた。 16節

神様はとってもふしぎなお方だね！ 思いもしないようなときやところで、救いのご計画をすすめられるんだから。

ヨナが、はじめから神様の言うことを聞いてニネベに出かけていたら、この船の人たちと出会うこともなかったよね。さらにこの外国の人たちが、嵐の中でまことの神様を知り、いっしょうけんめい神様を信じて従っていくと誓ったことを、だれが想像できたでしょう。すごいね！

わたしたちに起こるすべてのできごとの中で、神様は今日も生きてはたらいておられるよ。

**祈り** 天のお父様、わたしがしっぱいをして、それをむだにせず、たくさんの人の救いのために用いてくださり感謝します。





聖書  
テーマ  
暗唱聖句

エレミヤ 1・1～10  
エレミヤへの召し  
見よ、わたしは、わたしのことばを/あなたの口に与えた。

エレミヤ 1・9

目標

神の召しを覚え、その召しに従う者となる。

9月25日(日)

聖書  
聖句

エレミヤ 1・9

見よ、わたしは、わたしのことばをあなたの口に与えた。 9節

プレゼントをもらうこと、あるでしょう？  
もらったものは自分のものだ！と考えると  
き、自分のやりたいようにやり、自分の話したいことだけ話すけど、ほんとはくれた人が願うように使うべきじゃない？

神様は「わたしの言葉をあなたの口に入れたよ」と言われました。それは、あなたが周りの人に、神様がくれた言葉を話すためだよ。

だったら、だれかを傷つける言葉でなく、愛や慰めの言葉、だれかを助けるための言葉を話すあなたでいてください。

いの祈り

天のお父様、自分の思いでなく、あなたからあずかった口と言葉で周りの人に話せますように。

9月26日(月)

聖書  
聖句

エレミヤ 1・1～3

ベニヤミンの地、アナトテにいた祭司の一人、ヒルキヤの子エレミヤのことば。 1節

もし日本が3つの国に狙われてもうすぐ滅んでしまおうとしたらどんな気持ち？

ちょうどエレミヤのいたユダの国は、エジプトとアッシリヤとバビロンの3つの国に囲まれてだれが一番強い国か、争っていたのです。

しかも、ユダの国の人々は真の神様を選ばれた人々であつたはずなのに、本当の神様ではない偶像を拝んでばかりで、それをやめません。

ユダの人々が、神様に心からおわびして従うようにと、エレミヤが涙を流しながら語っていくのがこの物語です。

いの祈り

天のお父様、この日本も、あなたを信じていない人ばかりの国です。助けてください。

9月27日(火)

聖書  
聖句

エレミヤ 1・4～5

わたしは、あなたを胎内に形造る前から/あなたを知り、あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、国々への預言者と定めていた。 5節

まだみんながお母さんのおなかの中にいる前から、神様は一人ひとりを知っていて、こんなおうちに生まれて、こんな人になるようにと思っていて、この世界に送り出してくれたんだって！ それってすごいことだね！

だけど、みんな生まれてしばらくたつと、神様のことを無視して生き、神様が願わない方向へ行ってしまふんだね。そんな世界の中で、神様の気持ちがわかる子どもにされたあなたはなんてすばらしいんだろう！

いの祈り

天のお父様、わたしへのあなたの計画をもっと知らせてください。

## 9月28日（水）

聖書  
聖句

ヨナ1・6

ああ、【神】、主よ、ご覧ください。  
私はまだ若くて、どう語ってよいかわかりません。 6節

自分に自信のない人、いますか？「どうせわたしなんて…」って、一人で悩んじゃったりして心が重たくなっていませんか？

でもね、エレミヤもそう。最初から自信のある人なんていないよね。心配なこともいっぱいあったよね。その心にある気持ち、ぜ～んぶ、神様にお話ししているよ。

そう、神様は、お祈りの中でぜ～んぶ聞いてくださって、一つ一つ解決してくださるお方です。とっても心強いよね！

いの 祈り 天のお父様、わたしも、不安なとき、あなたにぜんぶお話しします。あなたが解決してくださることを感謝します。

## 9月29日（木）

聖書  
聖句

エレミヤ1・7

まだ若い、と言うな。 7節

やらないといけないことがあるのに「まだ子どもだからわかんない」「もうちょっと大きくなったらね」って言ってる人、いるよね！でも、それってやりたくないからじゃない？

神様はね、みんなにできることをえらんで「やってごらん」と言ってくださっているんだ。やる前からあきらめたり「え～できない」って言わないで「はい！ やってみます！」って言ってごらん。

神様はそれをする勇氣や知恵も、助けてくれる人たちも、あなたのために用意してくださるからね！ そしてりっぱに成長していったね！

いの 祈り 天のお父様、むずかしいと思うこともあなたがチャレンジさせてくださいます。「はい！」と言えますように。

## 9月30日（金）

聖書  
聖句

エレミヤ1・8

彼らの顔を恐れるな。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。 8節

神様を信じたらいやなことはもう起きなくなる、あとは幸せだけがくる人生だ！ と思っている人、いるよね？

でも、聖書の中の信仰者をよく見てみるとぜんぜんちがうじゃあ！ 次から次に問題や悲しみがやってきて立ち向かっているよね！

あなたもそう、神様を信じるということは、問題が起きなくなるのではなく、問題が起きたとき、悲しい時に、それを乗り越えさせ、強くしてくれる神様のなによりも強い力がもらえるということなんだよ！

いの 祈り 天のお父様、あなたの何よりも強い力でいろんなことを乗り越えさせてください！

## 10月1日（土）

聖書  
聖句

エレミヤ1・9～10

【主】は御手を伸ばし、私の口に触れられた。【主】は私に言われた。 9節

教会に行くと、聖書のお話、聞くよね？そして、それをどれくらい心の中で感じているかな？ 右の耳に入ったらス～っと左の耳から出て行って…なんてことや、「これはあの人のことを言ってる」なんて思ったり。

でもね、そうじゃないんだ。神様の言葉は、いつもあなたのために、あなたの心に、語っているもの。受け取らなきゃ意味がない！

今日、神様はわたしにどんなことを教えてくれるだろう！ それを聞いたら、どんな風にしたがって行こう？ そういう気持ちで聖書のお話を聞いてくれると、とってもうれしいです。

いの 祈り 天のお父様、あなたがわたしのためにお話しくくださる言葉を今日も聞きます。